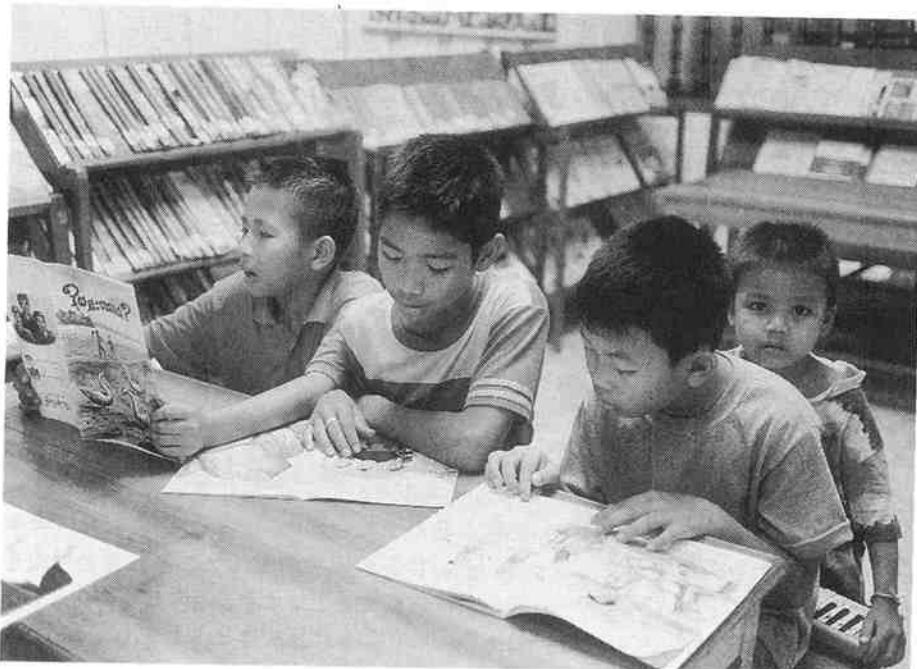


発行:ASPBラオスの子どもに絵本を送る会〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12ミキハイツ303 TEL/FAX 03-3755-1603

# ラオスのこども通信

2001年度活動報告 特集号



ヴィエンチャン「子ども文庫」で本を読む子どもたち

25号

(2002年6月発行)



## ASPBは今年、20周年を迎えました。

ASPBは1982年にささやかに船出をしました。手づくりの運動は、今までとても多くの人々の思い、志によって大きな力を得て、歩み続けることができました。ありがとうございます。

この20年の歩みとは、「日本からモノを送ることから出発し、90年代には「ラオスの人々による絵本づくり、読書推進、子どもの自己表現の場づくり」を進めてきました。手探りを繰り返しながらも、学校などにおいて子どもたちの読書環境は少しづつ整い、先生たちの意識も向上し、着実に運動の成果をあげてきました。

こうした成果を生み出したのは、個人、団体、企業・財団、行政機関などによる資金

的支援、図書館・絵本・紙芝居・造形などを子どもに関わる専門家と地域で活動する方々、主婦、社会人、学生などのボランティアや学校・企業などを通じて支援してくださる方、ユニークなアイデアを持参してASPBの運動を応援してくださる方などがあつてこそです。

ASPBは現在、「プロジェクトの自立化、ASPBラオス事務所の本部化」を目標に据えています。しかしながら2002年も早半ばを迎える運営資金（運転資金）の確保に非常に苦戦するという事態に直面しています。早急に、これを乗り越え、運営能力を高め、目標の達成に挑戦していきます。

これからも、どうぞよろしくお願いします。

## 2001年 活動報告

### ■この1年

2001-03中期計画では、ラオスの子どもたち自身が意思決定と問題解決の力を身につけるために、

① 子どもに対しては → 本を読む習慣を広める・自分を表現する楽しさを広める

② 社会に対しては → 多様な選択肢が示されている状況を創る

ことを活動の方向として定めました。

この方針に則った活動は、現地プロジェクトにおいて比較的堅調に展開できたのに対し、事務所運営については、問題点が顕在化してきた年だったといえます。これは、中期計画立案のための話し合いにより、各プロジェクトの目標が明確になり、現地プロジェクト運営の判断基準が共有化され、方向にブレが少なくなった一方で、会の運営、経営については、東京事務所の能力向上が遅れ、中期計画の方針を充分に具体化できなかったことによる

また、日本社会の不況の影響などから、収入の低下が甚だしく、恒常的な経常費不足に陥り、プロジェクト運営にも影響し始めてきました。

ラオスは、この1年インフレは続くものの、激しい変化ではなく、比較的落ち着いた年でした。しかしとりわけ都市部における所得格差の拡大は続いており、路上生活者の増加など、子どもに係わる社会問題も顕在化しています。

### ■出版プロジェクト

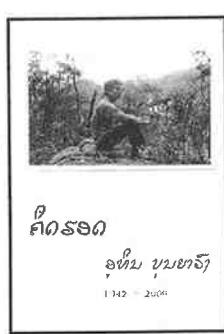
この数年、東京から編集の専門家を派遣するなど、出版の質を高めることに力を入れてきました。持ち込まれた原稿に様々なアドバイスを行い、改訂を加えるため、完成までに時間がかかり、

出版点数が少ない傾向が続いていました。今年は、その作業の成果が現れたこと、資金助成を多く受けられたことにより、この5年の中では、最も多くの作品を出版できました。

作品名	作者名/画家名	部数	主な支援者
ウテイン プンヤボンを偲んで	トウアンドウアン	3,000	キヤノン㈱
The Dream Comes True	Matsuo Tsuyoshi	5,000	㈱ミクプランニング
ラオスの歴史	トウアンドウアン	1,000	自己資金
LAO ANIMAL STORIES ラオ語版*	ブンサン/トーンサイ	10,000	東京国際交流財団／キッコーマン㈱
LAO ANIMAL STORIES 英語版*	ブンサン/トーンサイ	3,000	キッコーマン㈱／東京国際交流財団
かしこいのはどっち 改訂版*	フアンン/プーウ・オン	5,000	沖電気工業㈱
正しく走ろう 改訂版*	ウテイン/セングン	5,000	地球市民財団／連合「愛のカンパ」

\*については印刷完了は02年

上記の他8作品を編集。印刷は02年に実施予定



ウテイン プンヤボンを偲んで



LAO ANIMAL STORIES ラオ語版



かしこいのはどっち 改訂版



#### ▽ラオス出版委員会

出版ノウハウを蓄積し、将来的には出版社として自立することを意識して設置した出版委員会。本年は出版作品の選定の他、質の高い作品をラオス社会に紹介する目的で、海外作品の翻訳にも取りかかりました。また、前年に実施した「民話絵本コンクール」の優秀作の出版にあたり、作者へのアドバイスも行いました。

#### ▽日本編集委員会

「民話絵本コンクール」優秀作の出版に向け、日本において、絵本作家・編集者などの専門家の協力によるアドバイスを数回にわたり行いました。

#### ■読書推進運動

ラオス国立図書館の読書推進運動に協力し、図書箱や図書袋に図書を詰めて全国の小学校へ届けるプロジェクトを、10年にわたり実施してきましたが、本年は、図書袋の配布とこれまでの図書配布校に対する図書補充のみを行いました。

当初、図書補充への支援が得られず、実施が危ぶまれましたが、秋に緊急募金をおこなった結果、なんとか130校分を実施出来ました。

(計画は200校)

ハードからソフトへと読書推進運動の質の転換を図る意図で、全国各地の教育委員会に所属する教育監督官へのセミナー、教員養成学校でのセミナーなど、読書推進活動の自立(ラオス人による活動推進)を目的とした新たな取り組みもスタートしました。1校単位ではなく、全体で運動システムを整備するという私たちの考え方が、現地側にも理解されて、各機関も積極的に協力態勢を整備し始めています。

配布県名	図書袋	図書補充	セミナー実施日
サワンナケート県	40校	30校	11月19-21日
ルアンパバーン県		65校	10月7-9日
シェンクワン県		35校	02年1月15-17日
合 計	40校	130校	

#### ▽教育監督官の読書推進セミナー

8月20-23日 サイヤブリ県全10郡の教育監督官が一堂に会し、読書推進セミナーを実施。読書推進活動の意義を理解してもらうとともに、教育

#### ▽紙芝居専門家派遣

ラオスの学校現場で、教材として手作り紙芝居の普及を促すために、ラオスの担い手となるキーパーソンを育成することを目的とし、「紙芝居ワークショップ」実施を計画。

現地で紙芝居普及活動を積極的にすすめる、ラオス参加型開発研修センター(PADECT)と連絡を取り合いながら、実施時期や内容についての調整をすすめました。数回にわたりミーティングを重ね、日本からの派遣専門家による一方的な指導ではなく、現地の参加者各自が必要としているアドバイスが行えるよう計画を練り上げました。現地実施は02年2月。

主な支援：住友財団



2001年 プロジェクト実施地域

図書袋：1校171冊 図書補充：1校151冊

図書箱・図書袋配布累計はラオス全国1372校

主な支援：図書袋/今井記念海外協力基金

図書補充/A C Aーアクア・指定募金

監督官が地域の各学校をまわる際に、読書推進に関する指導ができるように研修しました。

主な支援：国際ボランティア貯金

#### ▽教員養成校トレーニングコース

ラオスでは先生でも、読書を当たり前なものとしている人は多くありません。学校教育での読書推進活動の質と効率を高めるためには、学校の先生に対して先ず、その意義を伝えるべきであるとして今年から開始した事業です。

数百人の学生に対し、内容を充分に伝えるため、セミナー期間や講師を増やすなど、運営に苦労がありました。セミナーでは、子どもとの接し方など未経験の授業も含まれ、学生たちに大変好評でした。

1年間で全8校で実施。教育省教員養成局のスタッフも同行しました。1年間の成果を受け、教育省は04年より教員養成課程の正式カリキュラムとすることを決定しました。これは公教育の中で、もっと読書推進活動に取り組んで欲しいという、会の実践とアピールが反映した成果です。

主な支援：国際開発救援財団(FIDR)

#### ▽学校図書室ハクアン

新規開設16ヶ所（6小学校 9中学高校 1施設）  
図書補充 既設ハクアン55ヶ所 教員養成校8校。  
愛読を意味する「HakArn（ハクアン）」と呼ばれ親しまれているこの活動は、児童数が多い都市部の小中高等学校において、空き教室を利用し、図書及び本棚・机椅子などの備品を整備、読書推進活動のノウハウを提供する事業です。本年は支援が多く集まり、6校の予定が16校で新規開設となりました。開設時の図書数は生徒数に合わせ、小学校平均500冊、中学高校平均800冊を支援しました。

また、これまで開設支援をしてきたハクアン55ヶ所に各151冊、8教員養成校図書室に各582冊の図書補充を実施。図書の値上がりにより、例年より冊数が若干少なくなってしまいました。開設支援学校図書室は、累計71ヶ所です。

主な支援：外務省NGO補助金・ベルマーク

教育助成財団・キヤノン㈱・

アサヒビール㈱・指定募金

#### ■子ども文化センター(CCC)

学校教育では行われていない情操教育の場として「子ども文化センター（以下CCC）」を開設、運営支援をして7年。昨年から、CCC活動が政府により積極的に認知、重視され始めたことにより、現在は全国で14ヶ所で活動がおこなわれています。当会ではそのうちの6ヶ所で、運営支援しています。

各CCCでは、絵画・伝統音楽・伝統舞踊・歌・ゲーム・編み物・織物・英語・演劇・木彫・工作・粘土・人形劇・スポーツ・料理・詩・読み聞かせなどの講座が開かれています。

活動は中学生までの子どもたちが参加していますが、卒業した子どもたちが、年下の子どもたちの活動をサポートしたり、郊外の学校へキャラバンを組んで出かけ、センター活動を広げる役割を自発的に行う動きも定着してきました。

#### 活動状況

	来館者数/日		図書室 利活用数	講座数
	平日	土日		
ボリカムサイ	170	127	133	13
サイヤブリ	156	165	142	16
ルアンパバーン	123	190	105	12
ヴィエンチャン	12	75	30	12
ゲンタオ（サイヤブリ県）	35	20	35	9
シーサタナーク（ヴィエンチャン市）	35	150	57	8

参加費を支援しました。

#### ▽青少年活動

設立5年を超えるボリカムサイ、サイヤブリ、ルアンパバーンの各CCCでは、これまで様々なプログラムを経験して育った青少年たちによる、ボランティア活動が盛んに行なわれています。スタッフ引率のもと、10人程度のグループで地

方へ出向き、CCC活動の体験をしてもらうプログラムは特に人気。指導者の立場となることで、青少年たちが自信を深めるとともに、自分達で内容を工夫しあう姿もみられるようになりました。ただ、数人しか参加できない地方での活動だけが重視されぬよう、今後工夫をしていく必要があります。

#### ▽ニュースレターの発行

CCC活動を広報するため、各センターでニュースレター発行の支援しました。しかしCCCにより、発行回数にはらつきが見られ、今後お互いのノウハウを共有できるようにする必要があります。

#### ▽ラジオ番組製作

毎週土日（うち1回は再放送）に、読書推進を中心とした活動に関する番組を制作し、ラジオ放送をおこなっています。CCCに来ている子どもたちによる民話の語りやインタビューなどが折り込まれています。

#### ▽トレーニングコース・事業調整

スタッフや指導員から、自身の能力向上のための研修を実施してほしいという強い要望があり計画しましたが、予算がつかず実施できませんでした。また、現地事務所の担当スタッフが各CCCを巡回し、活動状況の把握やアドバイスをする計画も、予算不足により実施できませんでした。02年に実施予定です。

#### ▽「子ども文化センター全国会議」

近年のCCC活動の広がりの中、設立当初の活動理念が曖昧になり、センターごと、または政府や社会との間で、運営の理念や方向性にズレが生じていることを感じ、6月に全国の関係者を集め「CCC全国会議」を開催し、意見交換をおこないました。活動理念の確認、新しいCCC活動をどう支えるか、子どもの活動をどう積極的に展開したらよいか、経済的自立をどう図つたらいいかなどのテーマが話された中、参加者の意識がこれまでと違い、活動を自分たちの活動と考えていることが分かりました。また活動の「数（参加者）」より「質」についての関心が高くなっていることも感じられました。

活動の自立のための道筋は、政府が経済的支援

をおこなわない以上、困難であり、運営支援金の多元化を積極的に取り組むことが確認されました。

ラオス社会が開放的になるにつれ、子どもを取り巻く環境も大きく変わり始めており、ラオスでも賭博、薬物などの子どもへの浸透が問題化してきています。CCCは子どもをそのような社会問題から切り離す手段としても、社会から期待されています。

主な支援：国際ボランティア貯金・

㈱ミクプランニング・指定募金

### ■他の活動

#### ▽調査専門家派遣

9月5～14日、識字教育専門家の田島伸二氏を派遣し調査を実施しました。この調査はラオスの子どもの暮らしや学び、遊びの実態を把握し、彼らのニーズを知ることによって、今後の事業をより円滑で有効なものとしていくことを目的としています。今回は予備調査とし、本格的な調査を立案するための調査内容・方法の検討を行い、あわせて現地コーディネーターおよび調査員の実地研修を行いました。

調査はルアンパバーンとサイヤブリで実施。子どもたちに将来の夢を絵などで自由に表現させたり、ワークショップを実施するなど、子どもたちが抵抗なく自分の考えを表現する手法が紹介されました。本調査で子どもたちの本音を引き出すためには、これらの手法を組み合わせて進める必要があると確認されました。

同行者：チャンタソン 近藤知子

主な支援：国際ボランティア貯金



田島さんによるワークショップ

#### ▽事業調整派遣

会の費用による事業調整派遣は2名実施。

6月2日～8日：野口朝夫

CCCミーティング出席

12月19日～02年1月19日：赤井朱子

教員養成校セミナー・フォローアップセミナー  
調整

この他、5月に小川直美がスタディツアースタッフ、近藤知子が9月に子どもニーズ調査、12月に事務所運営調査、チャンタソンが9月に子どもニーズ調査のために派遣されています。

#### ▽書店経営

ヴィエンチャンにおいて、読書活動活性化のために書店を会が経営する計画は、役所との関係もあり、直接経営ではなく、関係者による書店立ち上げ支援の方向で、準備を進めています。

#### ▽受託事業

特定目的のための受託事業が行われました。

・アサヒビールスタディツアースタッフ実施

5月11～17日 社員の方を中心としたもの

### ■会の運営

#### ラオス事務所

##### ▽来日会議

00年12月28日～01年1月5日、ラオス事務所責任者のソンペットと、アドバイザーのドゥアンドゥアンが来日し、事業方針・3カ年計画について話し合いを行ないました。これにより、ラオス事務所と東京事務所で、事業方針について共有することができ、その後のプロジェクトの実施運営に関する連絡がスムースになりました。また、ラオス事務所の運営に関する問題点についても話し合われ、スタッフそれぞれの役割を確認するとともに、運営補強のため、会計担当者を1名加えることを決定しました。

##### ▽スタッフ6名 アルバイト2名体制

上記、東京での会議の結果を受け、会計担当者1名を雇用し、スタッフは6名となりました。事務局責任者ソンペットを中心に、それぞれの役割を再確認するとともに、責任範囲を明確にしたことにより、事業運営はもとより、データの把握や実施状況の報告などのシステムが、少し

- ・和光石原奨学金 1～6月分を教員養成学校生徒34名に支払いましたが、9月以降はシステム見直しのため、一次休止。
- ・特定小学校支援として小田原ユネスコ協会から委託を受け、絵の交換、画材の支援を実施。

#### ▽国内事業

日本国内においては、各種イベントに参加し、活動紹介や物品販売を行いました。参加イベント数は、過去最高の計10回（うち1回は当会主催）となりました。



1月 札幌NGO屋台村

ずつ整いはじめました。また、各自の業務の反省を年に1回行ない、東京事務所に書類提出することをスタートしました。

昨年雇用した2名のアルバイトも、週5日勤務で定着。子どもたちとの年齢が近く、身近な存在として親しまれ、頼られています。また、業務の分担も可能となりました。本年度は、教員養成校セミナーなどで、スタッフの地方出張が増加しましたが、このような人材の充実により、数名が同時出張しても日常業務を滞りなく実施できるようになってきました。

#### ▽資金獲得

Canada Fundを始めとし、現地で大きなプロジェクト助成金を獲得できました。また、当会の活動の噂を聞き、他の団体や個人、現地の学校などから、地域への図書袋配付や図書室開設指導などの依頼が来るようになっていました。これらは、これまでの地道な活動の成果であり、今後の現地化へ向けての大きな一歩と言えるでしょう。

#### ▽事業立案

昨年より開始した、現地裁量で使用できる予算を、利用法を会議で再確認したうえで継続。これにより、少額の支援依頼に対し、迅速に対応することが可能になりました。また、徐々にですが、現地で計画を立案することができるようになってきました。一方で、現地事務所責任者の判断に委ねられていることから、権力集中の問題もでてきました。

#### ▽車両の導入

中部建設協会より、国土交通省が使用していた中古4WD車を譲り受け、導入し、結果として起動力が大幅に増加しました。荷物や図書の運搬だけでなく、郊外の学校図書室へのフォローなど、活動が広がっている一方で、経費の増加が懸念されます。

支援：車両（社）中部建設協会  
輸送（財）日本国際協力システム

#### 東京事務所

##### ▽運営

前年、中期3ヵ年計画をまとめる中で、「その後」をどうイメージするかについて話し合われ、NPO法人格（特定非営利活動法人）の取得を準備することが確認され、安定した継続的な活動、専門性の高い活動をめざすことで合意されています。しかし残念ながら、この目標に必要な組織強化は充分なものとはなりませんでした。

この理由は、会として経営責任者が明快でないこと、東京事務所の仕事量とマンパワーのバランスが取れておらず、日常業務を越える余裕を持てないことにあります。さらに本年度の収支状況の悪化が、人材補強を難しくしました。プロジェクト事業に対するご支援は増加しても、それを支える運営費・経常費に対するご支援は増加していません。また予算が確保されていなくても、現地で実施が必要な事業があり、自己資金を投入することになります。このため、この2年ほど会が運営に使える資金が減少し、組織強化に取り組むことをより困難としてきました。

また、これまで組織の関心が現地プロジェクト運営に偏重し、国内での支援者サービス、広報活動、資金獲得、ボランティア育成などに充分向いていなかった結果ともいえるでしょう。こ

の1年は、組織としてのマネジメント能力の欠陥が明確になった年であったといえます。

3年に渡り積極的に活動を支えてきたスタッフ、小川直美さんが秋に退職し、ボランティアにまわりました。8月から近藤知子さんが、NGO専門調査員として活動に加わり、組織強化および東京・ラオス事務所の統合的マネジメントについての提言を準備しました。

専門調査員支援：（財）国際協力推進協会

#### ▽ボランティア

イベントボランティアの参加が、近年着実に増えています。またイベントでの留学生との協働も増加しています。通信の発送作業や入力作業でも、地元小学校の父母の協力も得られるようになりました。学校校舎を借りた作業も可能になりました。この中から、ボランティア主体のイベント参加など、新しい活動の方向が見えてきました。また、念願であったホームページ立ち上げが、沖電気工業（株）社会貢献室の皆さんのご協力により、ようやく実現しました。

#### ▽絵本2000冊運動

一昨年からスタートした、指定絵本に翻訳を貼り付けてラオスに送るこの運動も、徐々に冊数を増やし、1500冊ほどを送ることができました。個人や学校など、地方からの絵本リスト請求も多く、身の回りでできる国際協力活動として関心は高まってきています。

#### ▽対外活動

事務局長の森透が外務省NGO活動環境整備支援事業NGO研究会、教育協力ネットワーク研究会に、事務局長代理の野口朝夫が国際協力NGOセンターJANICの『南』の子ども支援NGOネットワーク運営委員会、JANIC-UNICEFの『南』の子ども支援NGO能力強化委員会に係わるなど、会の活動を越えた、NGO全体の能力向上活動に関係するようになっています。

#### ▽日曜勉強会

「国際協力」（森 千也さん）  
「子どもの権利条約」  
「識字の実践から」（田島伸二さん）  
「ルーマニアでの国際協力」（三浦佳子さん）  
上記テーマで計4回実施しました。

## 2001年 収支報告書

2001. 1. 1～2001. 12. 31

当期収入は予算を下回る結果となった。プロジェクト援助金・イベント収入は、前年を上回ったものの、一般寄付金・指定募金は大きく減少。全体として自己資金率が低くなり、運営費・経常費の捻出が難しい状況になってきている。支出では、予算に対し決算額が大幅に低いのは「出版」事業。これは準備の遅れから、印刷が次年度に繰り越されたものが多いことによる。また、事業運営のための「派遣費」やCCC事業のいくつかは、資金が充分に獲得できず、実施できなかった。予算に比べ決算額が上回ったのものは、「学校図書室」。6ヶ所での新規開設の予定だったが、現地からの要請も多く指定募金等のご支援もあったことから16校で開設することができた。全体としては昨年を下回る支出合計となった。

	予算	決算	摘要
■前期より繰越 (A)	5,000,000 円	5,850,237 円	プロジェクト準備金
■収入の部			
一般寄付	4,700,000 円	3,209,989 円	のべ 379件(うち10万円以上の寄付者は以下の通り) 恵泉ラオス会・相本真理子、国際ソロプロチミスト出雲、 町田市職員労働組合、高野はる子、沖電気工業(株) 「OKI愛の100円募金」、福原毅文、Kobe Global Charity アナイナウ
プロジェクト援助金	15,000,000 円	16,636,485 円	ア. 政府系助成金合計<¥5,971,280> 郵政事業庁国際ボランティア貯金、外務省NGO補助 金、CANADA FUND(現地受取) イ. 民間財団・基金合計<¥7,445,749> ACAーアクア(現地受取)、(財)国際開発救援財団、 (財)住友財団、(財)ベルマーク教育助成財団、公益 信託 今井記念海外協力基金、(財)日本国際協力シ ステム、(財)地球市民財団、草の根市民基金 アジア 草の根助成金、GAPE Project(現地受取) ウ. 企業・団体合計<¥3,219,456> ㈱ミクブランニング、キヤノン㈱、東京世田谷南ロータリ ークラブ、沖電気工業㈱「OKI愛の100円募金」、日本労 働組合総連合会「連合・愛のカンパ」、キッコーマン㈱、 ㈱興伸
指定募金	1,800,000 円	1,662,500 円	学校図書室(のべ6件)、補充図書(のべ9件)、子ども 文化センター(のべ15件)、図書袋(のべ7件)、絵本 印刷(のべ41件)、スタッフ人件費(のべ3件)
特別プロジェクト イベント収入	5,500,000 円	4,282,885 円	特定小学校支援寄付、出版配布図書譲渡 各種イベント協力料及び売上、アサヒビールスタディツ アー(図書室開設費用含む)
雑収入	500,000 円	507,633 円	紙芝居・物品売上、預金受取利息、換算差益等
収入合計 (B)	27,500,000 円	26,757,497 円	

### ■支出の部

●出版	6,360,000 円	2,002,662 円	a + b + c
a 図書出版	4,650,000 円	1,964,211 円	
創作絵本 印刷費	2,340,000 円	1,413,969 円	新刊図書5作品 計22,000冊
再版図書 印刷費	1,170,000 円	284,146 円	改訂版2作品 計10,000冊
絵本 翻訳費	60,000 円		翻訳絵本出版のため翻訳中 支払は次年度
著作料・レイアウト費	420,000 円	266,096 円	計7作品(次年度印刷分含む)・画材は画家に提供
環境教育の絵本出版費	600,000 円		次年度出版予定
b 出版委員会／編集委員	398,400 円	38,451 円	
出版委員会	120,000 円	9,094 円	ラオス側出版委員会経費・日本側経費は発生せず
図書資料費・コピーディ	192,000 円		資料購入は実施できず/コピーディは記録費へ合算
通信費	86,400 円	29,357 円	出版事業該当分
c 紙芝居専門家派遣	1,311,600 円		2002年2月-3月に実施
●読書推進運動	9,879,600 円	10,933,164 円	d+e+f+g+h
d 移動図書館 図書袋	4,620,000 円	3,417,542 円	
図書袋製作・配付セミナー費	984,000 円	1,048,293 円	80袋製作・計40校へ配付(1校 171冊)
補充図書購入・フォローアップ	3,456,000 円	2,181,187 円	3県で実施 計130校へ配付(1校151冊)
教育監督官セミナー	180,000 円	188,062 円	読書推進セミナー サイヤブリ県にて8月実施
e 教員養成校トレーニング	1,128,000 円	1,723,771 円	

<b>f</b> 子ども文庫	学校図書室	2,617,200 円	4,580,672 円	
図書室新規開設費		918,000 円	2,101,768 円	資材設備費・教材図書購入費 小6校/中高10校
図書教材購入費（フォロー）		1,224,000 円	1,766,405 円	昨年までの整備分計56ヶ所 教員養成8校
既存図書室設備・修理費			179,892 円	昨年までの整備分への、設備補修・備品修理
日本語図書翻訳貼付経費		216,000 円	239,018 円	日本語図書へのラオス語貼付 送料含む
文庫管理スタッフ人件費		144,000 円	175,797 円	管理スタッフ1名・アルバイト2名・学校休日開室手当
子ども文庫家賃		115,200 円	117,792 円	図書室本部 文庫スペース分
<b>g</b> 読書啓蒙雑誌発行費		192,000 円	703 円	出版許可取得料/印刷費はCCCニュースター発行に合算
<b>h</b> 読書推進運動 統括管理		1,322,400 円	1,210,476 円	
通信費		165,600 円	157,795 円	読書推進事業該当分
現地プロジェクト人件		432,000 円	283,589 円	現地出版コーディネーター1名 事業担当スタッフ1名
自動車輸送メンテナンス料		244,800 円	769,092 円	自動車ラオスへ輸送、ハンドル切替料・点検料
調査・調整派遣費		480,000 円		実施できず
<b>●子ども文化センター (CCC)</b>	<b>4,435,200 円</b>	<b>3,434,037 円</b>		
CCC 運営費（6ヶ所）		2,887,200 円	2,791,209 円	講師・スタッフ人件費 教材費・事務経費など 6ヶ所
補充図書購入費		396,000 円	39,307 円	6ヶ所のCCCへ図書補充購入
地方での活動費		108,000 円	14,036 円	県内の地方で青少年ボランティアとともに活動
ニュースレター発行費		96,000 円	43,097 円	活動内容広報用通話を4ヶ所のCCCで発行
ラジオ番組制作費			30,654 円	読書推進のためのラジオ番組を制作し放送
CCCミーティング		84,000 円	115,082 円	事業調整のための会合を6月に実施
トレーニングコース・事業調整費		156,000 円		実施できず
現地プロジェクト人件		244,800 円	242,662 円	現地事業担当スタッフ2名・中央CCCスタッフ2名
調査・調整派遣費		384,000 円	110,285 円	東京メンバー現地出張 1回（6月実施）
通信費		79,200 円	47,705 円	CCC事業該当分
●調査専門家派遣費		816,000 円	486,310 円	調査のための専門家1名・調整員1名派遣
<b>●受託プロジェクト</b>	<b>1,620,000 円</b>	<b>1,287,540 円</b>		
和光石原奨学金		720,000 円	247,617 円	教員養成学校（8校計34名）1月～6月
特定小学校支援			12,131 円	特定小学校への教材購入費
スタディツアーエンタメ		900,000 円	1,027,792 円	アサヒビールスタディツアーフェスティバル実施
<b>●国内事業費</b>	<b>2,430,000 円</b>	<b>2,382,023 円</b>		
イベント経費		1,680,000 円	1,360,872 円	イベント経費・食材費・領布品仕入
広報費		750,000 円	1,021,151 円	ニュースレター発行費、パンフレット印刷費
<b>●その他</b>	<b>259,200 円</b>	<b>58,714 円</b>		
プロジェクト予備費		180,000 円		現地取扱分 既存図書室補修費などに使用
通信費		79,200 円	58,714 円	派遣費・受託事業・国内事業・その他該当分
<b>●事務経費</b>	<b>5,332,000 円</b>	<b>5,155,270 円</b>	<b>k + 1</b>	
<b>k 東京事務所経費</b>	<b>4,426,000 円</b>	<b>3,968,389 円</b>		
事務所経費		480,000 円	440,000 円	01/2月～12月分家賃 水道光熱費含む
通信費		72,000 円	39,666 円	郵便代 国内外電話（事業該当分除く）
運搬費		84,000 円	42,290 円	現地へ図書輸送費・紙芝居送り（国内）など
人件費		3,396,000 円	3,135,504 円	有給スタッフ2名（法定福利費含む）・交通費
事務経費		369,000 円	284,367 円	事務用品費・記録費・リース料・修繕費・少額備品等
雜費		25,000 円	26,562 円	差益差損 送金手数料 会議室使用料など
<b>l ラオス事務所経費</b>	<b>906,000 円</b>	<b>1,186,881 円</b>		
事務所経費		72,000 円	80,149 円	家賃該当スペース分 水道光熱衛生費含む
通信費		57,600 円	33,727 円	郵便代 国内外電話（プロジェクト該当分除く）
広報費		6,000 円	25,088 円	新聞・TV取材等謝礼、関係団体への寄付等
人件費		504,000 円	628,599 円	スタッフマネージャー1名人件費、スタッフ6名交通費
事務経費		194,400 円	128,413 円	事務用品費・記録費・リース料・修繕費・少額備品等
出張費			235,258 円	スタッフ2名東京へ出張
備品費			27,750 円	FAX購入
雜費		72,000 円	27,897 円	銀行手数料 自治会費等
<b>■支出手合計</b>	<b>(C)</b>	<b>31,132,000 円</b>	<b>25,739,720 円</b>	
□当期収支差額	(B)-(C)		<b>1,017,777 円</b>	
□次期繰越金	(A)+(B)+(C)	<b>1,368,000 円</b>	<b>6,868,014 円</b>	指定プロジェクト援助金前受金及び費用未払分を含む

## 2002年 活動計画

会はこれまで、大統領府と結んだ活動覚書を根拠に活動をしてきたが、政府方針により外務省による活動許可を取得せねばならなくなつた。このためには、会が法人格を持っていることが条件となる。このため、本年は会の法人格取得準備など、組織活動の明確化に取り組む必要がでてきている。

また、会の財政状況が悪化しており、活動を支えるための運営資金が常に不足している。これまでプロジェクト運営を重視するあまり、活動基盤の整備に十分な关心を払ってこなかったツケであり、本年は、自らの足元を見つめ直し組織としての活動能力の強化、収入構造の確立が何よりも必要となっている。

中期計画の効率的な達成のため、3年間にわたり、読書推進運動プロジェクトを国際協力事業団 JICA 開発パートナー事業として展開する。

### 1 活動方針

- 中期3か年計画書で示された活動理念に基づき、各事業の自立（ラオス人主体による持続的運営）が可能となるような、基盤整備をすすめる。
- ラオスにおいて事業運営の担い手の発掘、人材の育成に力を入れ、持続可能なシステム形成をすすめる。また自主財源への移行を促進する。
- 日本国内においては、経営能力の強化、組織運営体制の確立と参加の拡大を図り、経営の立て直しをおこなう。

### 2 事業計画

#### (1)出版プロジェクト

- ・本を売る事業をシステム化。本を自分のものとする価値の提示・書き手の自立を促すことを目的とし、利益は次期出版費用に還元する。
  - ・新人作家を育成するために「絵本コンクール」を実施。優秀作品を出版。
  - ・現地出版委員会の活動を充実化。昨年発足し出版予定図書の選定などに協力を得てきたが、より安定した編集作業やアドバイスができるようにしてゆく。
  - ・「紙芝居」は自己表現の手法として、またメッセージを伝えるメディアとして位置づけ、作り手・演じ手を育成するため「手づくり紙芝居」を奨励。作成された紙芝居の中から子どもたちに人気のある作品を出版する。
  - ・今年度は13種 計65,000冊程度の図書を出版。
- ☆新刊子ども向け図書 [5種 各5,000冊]  
「民話絵本コンクール」優秀作品出版予定も含む。
- ☆子ども向け図書再版 [4種 各5,000冊]  
これまでに出版した作品の中から、評判の高い4点を再版予定。挿絵を描き直し、再編集。
- ☆環境教育の絵本 [3,000～5,000冊]

子どもたちに自然環境を守ることの大切さを啓蒙するオリジナル絵本を出版予定。

☆翻訳図書出版 [3種 各5,000冊]

質の高い作品を紹介するために、国外の様々な作品を翻訳し出版する予定。

#### (2)読書推進運動プロジェクト

- ・これまでの「図書箱・図書袋プロジェクト」と「学校図書室プロジェクト」に加え、「教員養成校プロジェクト」を合わせ、読書推進活動をより総合的な構成にする。このプロジェクトの管理運営アドバイスのために、日本人駐在員を4月から現地に派遣予定。フォローアップ時の調査を充実させ、評価をおこなう。
- ・配付及びフォローアップセミナー時には、各県教育委員会の教育監督官を招き、読書推進の状況を把握してもらい、将来的に監督官がフォローアップができるように働きかける。
- ・学校図書室の整備は、規模は拡大せずに継続。既存の図書室に対する図書補充も継続実施。同時に、学校間のネットワークの充実を図る
- ・図書袋 [合計40校 総計約6,000冊を製作・配布]
- ・フォローアップ活動 [合計150校へ図書を補充]
- ・ラオス全国の教員養成校にて全生徒を対象にトレーニングセミナーを実施 8校
- ・教員養成校の図書館司書を読書推進の指導員とするための養成講座を実施
- ・学校図書室の開設支援 6校（図書箱図書袋の支援が得られない中学高等学校に重点）資材設備、図書・教材の支援、開設セミナーの実施
- ・学校図書室フォローアップ 71ヶ所
- ・読書啓発雑誌 [年4回発行 各1000部]  
ラオス出版委員会のメンバーが中心に編集。

### (3) 子ども文化センター（CCC）

- ・CCCへの支援を経済面の支援から、教育のソフト面での支援へと段階的に切り替える。既存の4カ所のCCCには、支援額を逓減させながら、今後3年間は支援を継続。資金的な自立を促す。逓減した分の予算を使い、新規の地方CCCの活動支援をしてゆく
- ・ヴィエンチャン及び東京事務所は、調査と運営アドバイスで自立を助ける

#### ☆ヴィエンチャンCCC

数年間適当な場所が見つからず、当会の事務所内に場所を移して運営してきたが、今後、運営場所や運営主体について、具体的に話し合う必要がある。また、一昨年より準備している、ヴィエンチャン特別市教育委員会の施設への支援を実行する。この施設は、子どもたちの自由な空間であると同時に、教員の研修センターとしても機能させる計画である

#### ☆ボリカムサイCCC

地域は人口も少なく、自己資金を確保するような幅の広い運営ができにくい。昨年末、センターを立ち上げ中心となり運営してきた館長が辞職したため、運営の質を保ちながら継続してゆくよう気を配る必要がある

#### ☆サイヤブリCCC

自主運営に向けて積極的な活動を行ない、先進的な活動をしていると評価も高い。各学校などとの地域での連携もよい。他地域のモデルとなるよう、より内容を発展充実させるとともに、他の新規CCCスタッフへの研修について資金的支援を継続する予定

#### ☆ルアンパバーンCCC

活動は活発で、自主運営への移行についても積極的に考えているが、各スタッフの能力を向上させることができ大きな課題。規模よりも活動の質を高めていくよう働きかける

- ・中央CCCスタッフへ人件費を支援
- ・各CCCの活動を把握し、運営に対する調整を行うための支援も行う
- ・地域ネットワークづくりのためのニュースレター制作費・地方での活動費を各CCCに支援する

## 3 運営計画

### (4) 東京事務所

組織運営の体制整備や参加の拡大、経費削減

など、事務所の強化に取り組む。とりわけ経営意識を高めマネジメント能力を向上させる

- ・NPO法人格の取得
- ・ラオスやラオス語関係図書の出版など、自主財源確保のための収益事業を企画
- ・ホームページや英語資料の内容を充実させる
- ・ニュースレターの発行及び内容の更なる充実・安定化を図り、情報発信の強化をおこなう
- ・「絵本2000冊運動」  
絵本にラオス語の翻訳を貼り付けて送る活動に一層力を入れる
- ・土曜日のボランティア活動日を強化  
安定した人材確保が不充分である。業務の整理と、よりボランティアが参加しやすいようアピールしていく
- ・勉強会  
各分野の専門家に協力を求め、勉強会を積極的に実施したい。また勉強会を通して、専門家とのネットワークづくりをすすめたい。
- ・スタディツアーの実施  
一般参加ではなく、テーマを絞った形での開催を予定

### (5) ラオス事務所

- ・スタッフ6名、担当分野での専門能力の向上と、事業主体としての企画力、交渉力の向上。将来の運営主体の移行を見据え、ラオス事務所でのプロジェクトの決定の比重を徐々に増やす
- ・ラオス-東京間のコミュニケーションの強化、ラオス国内の他NGOとのネットワーク強化
- ・日本から派遣する駐在員のアドバイスにより、特にマネジメント能力を高める
- ・会計担当の新規雇用により、事務処理能力を充実させ、東京で行っている事務処理の一部（特に会計）をラオス側に少しづつ移行
- ・現地で、独自に海外の助成団体から資金の提供を受けるケースもあり、運営主体の移行に備える意味でも、ラオスでの日本語および英語の広報を強化する
- ・事務所内「子ども文庫」  
子どもの遊び場であり、担当スタッフが子どもたちと触れ合う実践の場でもある従来の機能に加え、全国の学校図書室の情報センター・研修センター、また子ども向け図書の出版を志す人のための資料センターとしての機能を充実させていく

## 2002年 予算

2002.1.1 - 2002.12.31

このところ事務所経費の不足が続いているが、現地プロジェクトが拡大しているために、業務の縮小が難しい状況があります。今年は、JICA開発パートナー事業の準備のために、専門スタッフを雇用する必要があり、人件費など増加した予算となりました。

前期より繰越	5,000,000 円	<子ども文庫 学校図書室>	3,060,720 円
■収入の部		<読書啓蒙雑誌発行費>	216,000 円
一般寄付	4,500,000 円	<統括管理>	6,728,400 円
指定募金・プロジェクト援助金	24,000,000 円	☆子ども文化センター (C C C)	5,013,900 円
イベント収入	6,500,000 円	内訳<各センター運営費>	3,742,200 円
雑収入	500,000 円	<ネットワーク・統括管理>	1,271,700 円
収入合計	40,500,000 円	☆特別実施プロジェクト	3,847,500 円
■支出の部		内訳<その他>	3,847,500 円
☆出版	9,585,000 円	☆事務経費	3,689,450 円
内訳<図書出版>	6,709,500 円	内訳<東京事務所経費>	2,735,000 円
<出版委員会>	734,400 円	<ラオス事務所経費>	954,450 円
<紙芝居>	1,475,550 円	支出合計	39,862,970 円
<絵本コンクール>	665,550 円	■収支	
☆読書推進運動	17,727,120 円	前期繰越	5,000,000 円
内訳<移動図書箱 図書袋>	4,063,500 円	収入	35,500,000 円
<教員養成校>	3,658,500 円	支出	39,862,970 円
		次期繰越	637,030 円

## 2002年 総会人事

総会で今後2年間会の運営にあたる役員が承認されました

代表 : チャンタソン インタヴァン  
事務局長 : 森 透  
事務局長代理 : 野口 朝夫  
会計 : 風間 美苗

総務 : 赤井 朱子、近藤 知子  
監査 : 小川 直美、清水 宏子  
顧問 : 越田 稜、わかやまけん、  
長野ヒデ子、やべみつのり

### 2002年度のイベントのお知らせ

#### ■「ラオス～手織りの美」

7月15日（月）～20日（土）  
東京都港区（株）コトブキD I センター  
JR 浜松町駅 下車  
ASPBが主催するラオスの織物と民族衣装の展示会。詳細は同封のチラシにて。

■麻布十番納涼祭り「国際バザール」  
8月23～25日（予定）  
東京都港区 一の橋親水公園 地下鉄 大江戸線・南北線 麻布一番駅 下車  
国際色豊かな麻布の夏祭りに、今年もラオ

スの屋台を出店します。例年、どのレストラン？と多くの方に尋ねられる味をどうぞ！

#### ■日比谷国際協力フェスティバル

10月5日（土）～6日（日）  
東京日比谷公園 地下鉄 日比谷線 日比谷駅 下車  
NGO、政府機関など国際協力に関わる団体が集合する大規模なイベント。  
ASPBは活動の紹介と食品の販売を行います。

#### ■OTAふれあいフェスタ

11月9日（土）～10日（日）  
東京都大田区 平和島競艇場 京急 平和島駅

各イベントの企画・実施にご協力いただけるボランティアを募集中！

詳細は事務局にお問い合わせを。

## アジアの中でのラオスの子どもたち

野口 朝夫

アジア地域で子ども支援活動をしているNGOが、連絡を密にして協働できるようにと、2月14日から16日まで、ジャカルタで「東南アジア・日本NGO子ども支援会議」が開かれ、JANICのメンバーとして参加しました

会議にはインドネシア、ブルネイ、マレーシア、タイ、ラオス、カンボディア、ベトナム、ミャンマー、フィリピン、それに韓国、日本の11カ国、大人50人、子ども20人ほどが参加しました。各国の代表が、それぞれの国の子どもたちの状況、問題点をレポート。その後、教育・健康衛生、HIV・人身売買と商業的性的搾取・ストリートチルドレン、児童労働のテーマで、課題の明確化とネットワークの可能性の探求がおこなわれました。

私にとって印象的であったことは、アジアの地域でも、子どもの状況はそればかりか違うということです。タイやインドネシアなど経済が発達している国々と、ラオスやカンボディアではきわめて状況が違います。都市型の子ども問題と、農村型の子ども問題の違いもありそうです。でもそれだけでなく、とりわけラオスが別世界という印象なのです。

会議では、CEDC Children in Especially Difficult Circumstances がひとつのキーワードだったのですが、ラオスだけ?はそれ以前の状況で、子どもの環境(人権)が、一番悪く感じました。

タイにしても、インドネシアにしても、環境の悪い子どもたちは沢山いるのですが、一応基本的には子どもを教育、保護するシステムが多様に社会に備わっています。その「建前」は充分でなくとも、それを補うNGOの大きな力があります。ラオスでは建前も本音とともに充分でなく、子どもたちにとって決定的な違いです。

タイのグループから、97年の経済危機以降、タイの子ども問題は、農村・都市間の問題というより、タイと周辺国の子どもたちの問題へと変化してきているというレポートがありました。バンコックで保護する子どもたちは、近年、周辺国から売られ連れられてくる例が非常に増えているというのです。グローバリゼーションの中、子どもの問題に関しても、各地のNGOが連携なしには充分に働きなくなっている現実が報告されました。

もう一つの会議でテーマは、「子ども参加」です。会議に各国の子どもが実際に参加したのもこのテーマに基づきます。子どもの権利条約で保証されたこの権利は、子ども支援活動のNGOにより活動の基本であることが認識され、それぞれの活動にどの様に反映させているか報告されました。まだ充分に取り組めていないことも分かりました。私たちが支援している、ラオスの子ども文化センターでのOBの子どもたちの自主活動などは、もっと積極的に支援すべきものという気がします。

それでも3日間を通して常に感じたことは、アジアのNGOリーダーたちの能力の高さ、経験の豊かさです。とかくNGO活動では欧米系の団体の動きが目立ちますが、地域に根付いた活動をしているいくつかの団体の質の高さには、学ぶべきことが沢山ありました。

現在、ASPBはラオスのスタッフの能力向上に取り組もうとしていますが、日本での研修ではなく、タイや他のアジア地域での研修の方が成果が多いのではないかとも思え、他の日本のNGOと共同して、アジアのネットワークを用いた研修プログラムを作ろうということになりました。

私にとっての今回の会議の参加の意義は、「アジアの中でのラオスの子どもたち」という視点に気がついたことになり、今後、日本→ラオスという枠組だけではない発想を、身につけたいと思います。



会議ではラオスの紙芝居を紹介

## ASPB 設立20周年記念とサバイディー・ピーマイ・パーティ

毎年、ラオスのお正月の雰囲気いっぱいの「サバイディー・ピーマイ・パーティ」。

今年は4月21日（日）、参加者125名、ラオス留学生・ボランティア40名の合計165名が会場の東京ガス大田ビルに集い、ASPB設立20周年記念行事「走ってころんで歩・歩・歩、ASPB 20年のあゆみ」と併せて、長めに、盛大に祝いました。当日、会場・厨房をご提供いただいた東京ガス株式会社、ご協賛いただいたアサヒビール株式会社に心よりお礼申し上げます。パーティの収益金約44万円はASPBの活動資金としてラオスの子どもたちの教育支援に活用させていただきます。

今年もボランティアを中心に企画・運営を進めたパーティ、参加された皆さんのご感想は？

参加者の声～アンケートから（回答者：42名）

- よかつたプログラム：留学生の伝統舞踊、ラオス料理、留学生の話
- よかつた展示：子どもの絵、ラオス料理、新聞・雑誌で見るASPBの20年
- ご意見：「20年活動を継続してきた力を感じた」「よい活動をしていることがわかった」「自立をめざしていることに共感」「料理がおいしかった」「活動に協力したい」「子どもが遊べるスペースがほしい」等々
- そして全員が「また参加したい」

### ご協力いただいたボランティア・留学生の皆さん

荒絵里世 飯田春奈 池田千代子 ヴィエンシー 大塚茜 小川尚信 長田祐佳 風間美苗 加藤佐代子  
工藤政則 櫻庭隆之 佐々木綾郁 佐々木妃士美 佐藤卓弥 佐藤初美 座波圭美 塩谷光 清水宏子 須  
々木三佳 センター 寺内由華 中田夢 長峰由紀子 鳴海加奈 野口温世 野口耕人 パリマ 久留雅美  
福島直樹 細谷泰介 増山佐和子 三浦隆瑛 モイ山本功子 横山真紀子 ラー ラオス留学生の皆さん

### ドキュメント パーティの1日

当日は朝から雨模様。お客様はどのくらい来るかしら？準備に追われながらも気になります。時間はどんどん過ぎていき、始まりの時刻。受付担当だった私は民族衣装に着替えるのももどかしく会場入り口へ。開場時刻前からいらした方もいて出足は順調でした。

受付からは会場内の様子は見えませんが、時々きこえてくる笑い声から楽しそうな雰囲気が伝わってきました。交代しながら会場に入った

### ボランティア 山本 功子

のは10～15分間程。料理のテーブルにはなかなか近づけません。ラオス料理は大好評だったようです。

ボランティアとして参加するのは、パーティが楽しみなのはもちろんですが、いろんな人と知り合えていろんな考え方にお会えるから。みんなで一つのことをつくりあげる楽しさと難しさを実感しました。また次のイベントで皆さんにお会い出来るのを楽しみにしています。

### ボランティア掲示板

#### お祭り同好会

昨年11月の「ローイクラトン祭り（タイの灯籠流し）」へ行ったのを皮切りに、ボランティア仲間の櫻庭隆之さんと東南アジア的なお祭りを渡り歩いています。12月には1名加わり「TOKYO ASIAN CITY FESTIVAL 2001」へ、そして今年5月には総勢6名で「第3回タイ・フード・フェスティバル2002」へ行きました。

カレーや麺類、トムヤムクン、タイスキなど、おなじみの料理のほか、ココナッツ・アイスクリーム・サンドなる、コッペパンにココナッツ味の

#### ボランティア 塩谷 光

アイスクリームをはさんだ、日本人の常識では考え付かないような組み合わせの食べ物も。仲間のあいだでも賛否両論、議論沸騰でした。ステージではタイのサンプラザ中野（？）、フライのライブがあり、会場のタイ人達は熱狂の渦でした。

イベントの開催や参加が多いASPBのこと、お祭りが好きなボランティアも結構いると思います。ただ遊びに行くのもいいものですよ。ボランティア活動を通して仲間になって一緒に祭りを楽しめましょう。

## ラオス便り イーアンのはじめての文字

小川 直美

東京のスタッフを辞め、ラオス語を少し習った後、私は3ヶ月ほどラオスに行っていました。ヴィエンチャン事務所1階の子ども文庫に通ううち、何人かの子どもたちと顔なじみになったが、その中にひとり、気になる女の子がいた。それがイーアンだ。

年は4～5歳くらい。いつも汚れたり破れたりした服を着て、顔や手も真っ黒けだ。スタッフは言う。「あの子はモン族で、ここに来はじめたころは、まだラオス語がよくわからなかつたの。親はあの子に物乞いをさせているんだけど、あの子はそれがイヤでここにくる。でも親はそれを知ると彼女をぶつの。」

イーアンは文庫のお兄さんに絵本を読んでもらうのが大好きだ。自分で声を出して読んでいることもあるが、文字が読めるわけではなかつた。耳で覚えて、絵を指さして「ねこ」「ねずみ」などと言っていたのだ。

ある日、ほかの子が絵を描いている横で、イーアンも何か描きたそうにしていた。スタッフが紙と鉛筆を渡し、文字をいくつか書いて読んでみせた。イーアンが真似して書き出した。「コー・カイ...」ラオス語のアルファベットの最初の文字で、「カイ」(にわとり)の頭文字「コー」。鉛筆を握りしめ、ゆっくりと文字の形をなぞる。イーアンがふと顔を上げ、そばにあった絵本の表紙を指差して「クーカン」(同じ)とつぶやいた。題名に「コー」の字があった。

どきどきした。いまイーアンに何かすごいことが起こったんじゃないかな。

何らかの事情で首都ヴィエンチャンで暮らすようになったイーアンは、もしかしたらラオス語の単語を絵本の読み聞かせから覚えてきたのかもしれない。そしてこの日、絵本の中から最初の文字をつかんだのだ。

イーアンにとってモン語は大事な母語である。

しかし、この街で暮らすには、そして教育を受けるには、公用語「ラオス語」は絶対不可欠な「生きるために必要な言葉」だ。文字をつかむことは、人生をつかむことなのだ。



## 事務所の動き

### 東京事務所の動き

#### ■ 3月

- 5日 JANIC子ども支援NGOネットワーク運営委員会(野口)
- 11日 子ども支援NGO能力強化研修(進行:野口)
- 17日 運営会議
- 19日 NGO研究会(森)
- 20日 JNNE(教育ネット)外務省懇談会(森)
- 25日 NGO研究会(森)
- 26日 JNNE総会(森)

#### ■ 4月

- 2日～4日 「ラオスの子ども通信」24号発送
- 11日 NGO能力強化運営委員会(野口)
- 14日 運営会議
- 18日 JANIC子ども支援NGOネットワーク運営委員会(野口)
- 21日 サバイディー・ペーマイ・パーティ
- 24日 自民党-NGO意見交換会(森)

#### ■ 5月

- 7日 仙台市立西山中学校訪問学習受入れ
- 9日 宮城県川崎町立富岡中学校訪問学習受入れ
- 10日 新潟市立下山中学校訪問学習受入れ
- 12日 運営会議「ペーマイパーティ反省会」
- 16日 今井記念海外基金 助成金贈呈式(森)
- 25日 「日本善行賞」表彰式(近藤)
- 26日 2002年度総会

### ラオス事務所の動き

#### ■ 3月

- 24～29日 GAPE向け読書推進セミナー チャンパサック県

#### ■ 4月

- 29日～ 学校図書室視察 Sisattanark Sikhordtabong 地区

#### ■ 5月

- 6～8日 学校図書室視察 Xaysattha Xaythany 地区

### ●現地出版状況

- 3月『孤児と歌を歌うキツネ』(再版) 2,315冊  
(生活クラブ生活協同組合)

## お知らせ

### ●指定募金メニュー改訂

7月1日より指定募金メニューが改訂されます。改訂にあたっては、製作コストと現地のニーズを反映し、継続的なご支援ができる内容としました。詳しくは別紙チラシをご参照下さい。

### ●書き損じはがき

5月末現在：はがき累計 3,011枚  
切手額面累計 9,716円

ご協力ありがとうございました(協力者名は16ページに掲載)。書き損じはがきは随時受け付けております。お手元にある書き損じはがきを事務局までお送り下さい。